

ウガンダにも平等な医療を

3年 D組 15番 加瀬 亜未



1. はじめに

この先何百年も続いていくだろう地球で、まず問題視されるのは温暖化などの環境的問題であろう。だが、環境問題と同じくらい重要視すべきなのは、各国に見られる格差ではないだろうか。現在先進国と発展途上国では、大きな医療格差が存在する。医療格差は、人権侵害とも捉えられると私は思う。出身地によって、最も良い選択ができないことは深刻な事態だと思った。現在の状況を知り、なにか改善できる点はないのか考察したく、今回この研究テーマを設定した。

2. 現状と課題

現在のウガンダは、保険サービスの利用状況が未だ低い数値であるため、保健指標が向上せず、医師不足や医師の判断能力不足から、正しい診断と治療が行われないこともあり、安心して医療を受けられない。ワクチン接種率も低く、対策できる病気の流行もみられる。私は、医療格差が問題であると考えた。

3. 先行研究

日本国政府は準備調査を踏まえて、協力準備調査の実施を決定し、JICAは、協力準備調査団を現地に派遣した。同調査団は、ウガンダ国関係者との協議、関連施設の調査、必要資料の収集、建設予定地の調査等を行った。

診療放射線技師の伊藤卓二さんが2007年4月に発表された事例研究では、医療機器や医薬品に関する先進国と途上国間の格差を概観し、この格差に対する国際的な取り組みについて調査した。ウガンダの現状を分析し、医療機器データを用いた持続的な医療機器運営の可能性について検討した。

4. リサーチクエッション・仮説

- ・ウガンダに医療が行き届かないのは、GDPが低く、医療面に割く割合が低いためではないか
- ・技術者が増えれば、医療範囲を広げ、質の良い医療が提供できるのではないか
- ・ウガンダが支援された資金をどの分野にどれほど使用されているのかを比較すれば、発展の妨げになっている部分が見えてくるのではないか

5. 研究方法

- ・日本ウガンダ間の違いや、支援についてインターネットを用いて調べる
- ・在ウガンダ日本国大使館に問い合わせ

6. 研究の成果・分析

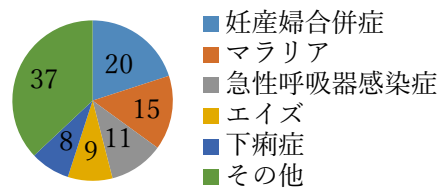


図1 ウガンダの死亡原因

←この他にも交通事故や食中毒も多くみられる。どの病気に関しても、ワクチン接種率が低い。↓有償資金協力、無償資金協力共にアジアが大きな割合を占める。

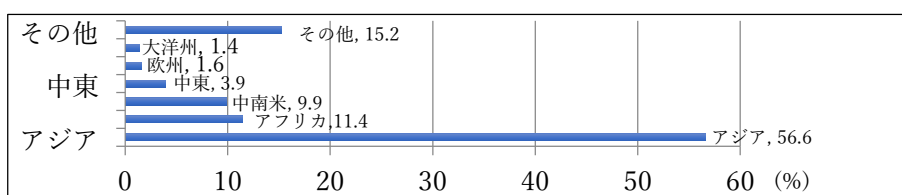
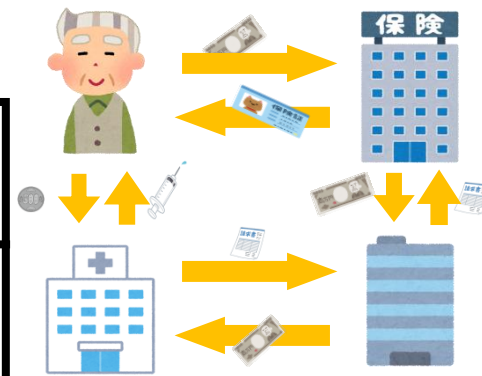
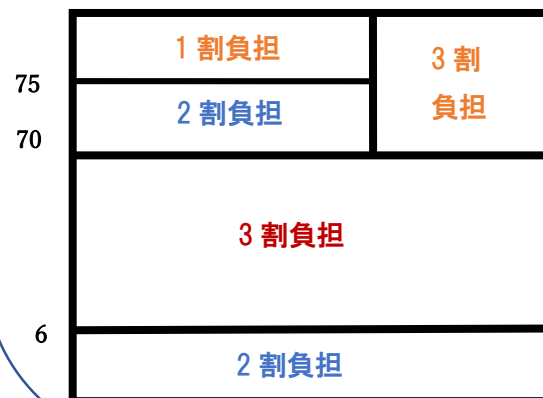


図2 日本のODAの地域別配分

☆日本の国民が安心安全に暮らせる理由

→国民皆保険制度



7. 考察

【1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう】

- ・日本は様々な国に支援を行っているがアフリカ地域への支援の割合は低い
- ・ウガンダには解決しなければならない問題が多々あるが、その全てを同時に解決しようとしているような活動が窺える
- ・ウガンダの医療従事者は日本や先進国に比べ、知識量が少ない
- ・より効率的に、医療を提供する側の安定を図らなくてはならない

8. まとめ

ウガンダの医療体制の現状や日本との関係などを知り、医療格差の深刻さを再確認することができた。平等を主張する人が増えても、現状を理解し新たな対策や問題に対して実際に動こうとする人間がいなければ何も変わらない。最近では、LGBTQなどの理解も進みつつある。それは多くの人が動いたからではないか。だが、医療格差に対して動く人は少ない。日々の生活が苦しく、ほかの国のことを知る機会が少ない途上国の人にとって現状を変えることは難しい。だから、状況を変えるには先進国などが協力し行動する人をどう増やすかを考えるべきである。そのために私ができることは、現状を理解し、こういった機会が多くの人にそれを伝えていくことだと思う。私は将来、日本にとどまらず世界とつながりながら生きていきたいと考えており、日本と海外のギャップを知ることは将来に役立つだろう。今回はウガンダに限った研究だったが、同じ問題で苦しむ国々の発展の参考にできるだろう。よって、より医療格差に関する理解を深め、状況改善のためになにかできることがないか思索することが大事である。興味を持つ人を増やすためにほかにできることはないかは今後の課題としたい。

9. 参考文献・協力

外務省ホームページ(2021年6月29日参)
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
PLAS(2021年5月25日参)
<https://www.plas-aids.org/activity/uganda>
国境なき医師団(2021年5月25日参)
<https://www.msf.or.jp/news/uganda.html>
在ウガンダ日本国大使館(2021年6月1日参)
https://www.ug.emb-japan.go.jp/itpr_jp/developmentcooperation_j.html
在ウガンダ日本国大使館、渡邊美月さん
伊藤卓二『途上国における持続的な医療機器運営に関する一考察-ウガンダの例を参考として-』(2007年4月)
独立行政法人国際協力機構(JICA)『ウガンダ共和国中央ウガンダ地域医療施設改善計画準備調査報告書』(2009年9月)
調査協力：在ウガンダ日本国大使館
国民皆保険制度-厚生労働省(2021年8月19日参)
<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000377686.pdf>